



中央アジアの国、ウズベキスタンの国土は日本の一・二倍、人口は約三千二百万人。ソ連を形成する共和国の一つだったが、一九九一年に独立した。今はほとんどの人がイスラム教スンニ派の信徒であるが、かつては仏教も盛んであった。首都タシケントにあるウズベキスタン歴史博物館には、ガンダーラ美術の仏像が展示されている。シルクロードの真ん中にあるため、日本との関係も古く、今のウズベキスタンにいたソグド人が、奈良時代に日本に渡ってきていたことが判明している。

ウズベキスタンにはユネスコ世界遺産に登録されている四つの歴史都市（サマルカンド、ブハラ、ヒヴァ、シャフリサブス）が存在しており、様々な文化、信仰を示す八千以上の遺跡が残されている。近代では、先の大戦後にソ連によってシベリア抑留された日本人二万五千人がウズベキスタンに移送された。マイナス四十五度にもなるシベリアとは異なり、ウズベキスタンの気候は暖かく、人々も親切なので日本人抑留者はとても喜んだという。大戦の勃発で建設が止まっていたタシケントのナヴォイ劇場を完成させたのは、日本人抑留者の工兵部隊だった。

一九九六年にその功績を讃えるプレートが劇場に設置されている。結局八五〇名の抑留者がウズベキスタンで帰らぬ人となったが、残り的人々は無事舞鶴港へ向けて引き揚げていった。今、古都サマルカンドを中心としたウズベキスタンツアーが日本でも人気。国内主要都市（東京、名古屋、大阪、福岡）からサマルカンドへの直行チャーター便も就航しており、二〇一八年には、四月から十月までの間で一二～一五便が予定されている。ウズベキスタン政府は、観光分野を発展させ、世界の観光の中心都市へと移行するため、実践的取り組みを行なっている。